

～コラム～ 学生が考える福生市商業活性化策

本調査の事務局メンバーとしては大学生（中央大学 細野研究室）も参加しており、「テナント構成調査」をはじめ、様々な調査の企画・実施そして取りまとめを行ってきた。当コラムは、本プロジェクトに参加した学生が感じた「福生」と「福生のあり方」を、彼らのフレッシュな視点から取りまとめたものである。若者をターゲットとしている商店のみならず、ご参考としていただければ幸甚である。

◆はじめに

福生市商業活性の取り組みに参加させていただけることになった私たちは、すぐに福生を訪れることにした。そしてまちを歩き、個性豊かな福生の魅力を肌で感じる事ができた。

「福生の魅力をどうしたらもっと引き出せるだろう。私たちが他の商店街の試みに参加して実践してきた活性化策を講じたらより魅力的なまちへと変化していくのではないか。」一まちづくりを勉強する学生として、そう考えずにはいられなかった。いくつかの調査を手伝うことで得られたデータから福生の現状を分析することができた今、福生の活性化のために私たちから政策提言させていただきたい。

◆実施した調査

私たちは今回の調査の中でも、以下の調査に携わらせていただいた。その調査を通じてまちの様々な視点から福生について知識を深め、いくつかの課題を明らかにすることができた。

【道路通行量調査（5月）】

肌寒い気候の中、市内5カ所で朝8時から夜8時までの12時間の現地調査を行った。各地点において往来者を性別・年齢層・通行手段に分けて通行量をカウントした。平日の朝に通勤通学のため出かける人々、夕刻に買い物に出かける主婦、休日に西友や国道16号沿いの商店街に遊びに来る来街者など、福生を動かす人々の「顔」を知り、福生のまちを感じることができた。時間とともに往来者が変化しているがわかり、それに対応した商業のあり方を考えることが課題としてひとつ浮かび上がってきた。

【来街者アンケート（6月）】

福生駅東口、西口、国道16号沿いに分かれて行った。アンケートの内容は福生市と商店街に対するイメージを問うものだ。初夏の太陽が照りつける中、真っ黒に日焼けしながら元気よくアンケートへの協力を呼びかけ、無事目標人数分のアンケートを取り終えた。アンケートに回答してもらった傍ら、「自然が多くてよいところ」、「昔は祭りがもっと盛り上がった」などといった来街者の声を聞き、生の福生を知ることができた。

さらに今後は、来街者が福生に期待していることに商店街が現在十分に答えているか、もしくはその準備を整えているかなど、来街者の意見にしっかり対応していくことが必要となるだろう。

【消費者グループインタビュー（7月）】

福生市商工会議所にて行った。年齢、性別で分けられた消費者グループに集まっていただき、普段の買い物場所や頻度、商店街の印象などを問うインタビューに参加した。大型小売店によるネットスーパー販売や市外大型小売店の利用状況を聞き、福生市商店街における商業活性化の厳しい現実を知った。しかしそれと同時に、「ここの和菓子屋ではいつも子供にお土産を買っていく」など、商店街との触れあい話も聞き、市民の福生への愛着も感じた。

こうして個々の商店に対して市民はまだ愛着を感じている、というメッセージを商店街に伝え、今後も継続して商業者にやる気を持たせることの重要性が生じてきた。

【テナント調査（9月）】

国道16号沿いを含む6商店街のテナント調査を学生だけで行った。通り沿いのテナントの業種と店名を紙の地図へ書き込んだ後、今度はインターネット上の地図への入力作業を黙々とした。地道で根気のいる作業だったが、商店街の様子を観察しながらの調査は刺激的で、個性豊かな雑貨屋さんやランチの美味しいお店があったり、子供たちが書いた可愛いポスターがあるなど、福生商店街の魅力をたくさん発見した。

これからの商店街づくりを考えた時、個々の商店の個性をどう市民に伝えていくべきか、HPや商店街マップ、まち歩きマップ作製の緊急性があることがわかった。

◆私たちの考える商店街活性化政策

このような調査から、私たち学生は福生の商店街の強み・弱みの両面で多くのことに気づいた。そして「こんなにも魅力があふれる、福生のまちを元気にしたい!」という思いから、この場をお借りしてまちの顔となる福生の商店街へ政策提言をしたい。そしてこれをきっかけとして、福生の市民の人たち全員とまちづくりのワークショップを開催し、「福生、多摩一の魅力あるまちづくり」のお手伝いをしたい。

～福生駅西口～

福生駅西口には5つの商店街・商栄会が集中し、福生市の台所となっている。生活に必要なものはなんでも揃えることができ、お肉、お酒、かつおぶしなどの専門店もある。このような店舗では、店主から商品についての詳しい知識を聞きながら、自分の好みに合った商品を買うことができる。歩道はタイル張りになっていて、さらに店先の歩道に商品・看板がとび出していないので歩行者や自転車などが通行しやすい環境だ。お客さんと店主が仲良く話をしている様子をよく見かけ、アットホームな雰囲気を感じることができた。

駅前の商店街はその立地を生かし電車での来街者の利用を促せるよう、気軽に立ち寄れそうな飲食店を多く展開すべきだ。例えば銀座通りではたくさんある空き店舗を利用して、人々が足を止めてくれるような工夫をしてはどうだろうか。お年寄りに優しい休憩所や喫茶店、子供連れの母親たちがカートを持ったままゆったりと過ごせるような飲食店を設けることは、有効な空き店舗対策であると考えます。また、栄通り・銀座通りには駐車場が多いにもかかわらず、来街者アンケート調査では駐車場は少ないという意見が多かった。そのため駐車場案内を設けるなど工夫をすることで、車での来街者による利用を増やせる可能性がある。

～福生駅東口～

東口駅前商栄会にはさまざまなタイプの飲食店や食料品店が並んでいるため「食に強い」商店街と言える。また、駐車場が多く車で訪れやすい環境にあり、さらに駅からの回遊性も良いため、多くの買い物客が西友に訪れている。

そこで駅側の商店街は、その特徴を生かした食に特化した活性化を進めたらよいのではないだろうか。例えば、消費者グループインタビューの調査結果にもあったように、食料品を扱う小売店で食べ歩きができるような商品を販売する工夫や、空き店舗を利用して会社へ向かうサラリーマン向けに朝食が食べられる飲食店を開く、といった活性化策が考えられる。そうすれば、西友に訪れる多くの買い物客も、東口駅前商栄会に向かい、福生駅東口全体の活性化にもつながると考える。

～国道 16 号沿い～

国道 16 号沿いの商店街にはおしゃれで流行を押さえている店舗が揃っている。変わったメニューの飲食店もあり、バラエティ豊かである。歩道も整備されているので歩きやすく自転車も通行しやすい。道路が真っすぐできちんと整備されており、アメリカ郊外の道路を思わせる。商店街が管理する駐車場があり、商店街の店舗の商品を買うと割引になる。これは車で来街者にとって嬉しいサービスだろう。駐車場の車を見ると多摩ナンバーのみならず、都内や他県ナンバーもあり、多くの人がこの商店街に興味を持っていることが分かる。

この商店街では、様々な種類の小売店があることから生まれるにぎやかな雰囲気と異国情緒漂う雰囲気をさらに活かし、道路や店の看板などにアメリカンなペインティングをする、などといった「陽気でアメリカンなストリート」を目指した活性化策が考えられる。また、来街者アンケートでは駐車場に対して不満を持つ人が多かったが、空き店舗・空き地が少ない今の土地利用状況でこれ以上駐車場を増やすのは難しい。そのため駐車場は既存のものを十分に活用し、「商店街を歩くこと」を楽しんでもらい、お目当ての店以外にも立ち寄ってもらえるような工夫が必要となるだろう。

◆終わりに ～福生のみなさんへ～

このように私たちから福生のまちの「弱み」を改善し、「強み」をさらなる「強み」に変える活性化策を提案させていただいた。加えてこれからは福生全体をネットワーク化し、商店街ごとの強みを合わせることで相乗効果を生み出すことも重要な課題だ。この課題を達成するには、一部の人だけでなく、福生のみなさん一人ひとりの力が必要になる。

福生のまちを活性化するために私たち学生はこれからも福生のまちを訪れ、多くのことを勉強させていただき、福生に貢献していきたいと思う。福生市のみなさんと一緒に精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします！